

5. 長期的な戦略で企画・立案し、実行する

(1) 事業の企画・立案と実行

地域文化施設の運営方針や地域づくりの拠点となる構想を推進するための事業を具体的に企画・立案していく。

この際、地域文化施設は、顕在化する直接的住民ニーズのみを考慮して企画・立案するのではなく、必要課題に対応し、潜在的住民ニーズを掘り起こす必要がある。直接的ニーズに基づいた市場性（集客力）ある事業は、普段、施設を訪れる機会の少ない住民を施設に呼び寄せ、施設の認知度、利用度を上げることにつながる側面もある。一方、潜在的ニーズに対応した事業にはこうした市場性（集客力）とは別の判断基準が求められる。

(2) 総合的戦略の必要性

また、地域文化施設はこれら多様なニーズにどのように対応していくのかの戦略を立てて、事業を企画・立案していくべきである。その際重要なのは、個々の事業内容だけではなく、それぞれの位置づけや相互の関連性の明確化、そして、地域文化施設全体の目標達成を視野に入れた総合的な戦略や運営計画である。

また、結果や成果を短いサイクルで求めるのではなく、事業を反復、継続しつつ、軌道修正しながら、長期的な視点で目標達成を図る姿勢が必要であろう。

事業の企画・立案に際して考慮すべき項目を、参考までに次のページに列記した。

[事業の企画・立案にあたっての検討要素]

1. 目的別要素

- 鑑賞・学習型事業：住民に芸術に触れてもらい、自己啓発、自己実現に役立ててもらおう事業
- 育成事業：芸術家や舞台芸術に携わる者等を育成することが目的の事業
- 交流型事業：市民参加による創作活動といった、住民間のコミュニケーションを生み出す事業
- 発信型事業：芸術を通じて地域の内外にアピールしていく事業（シティセールス型）

2. 事業形態による要素

- プロデュース（自主制作）型：地域文化施設が独自で企画、実施する事業
- プレゼンター（買い取り）型：音楽事務所や劇団などの買い取り公演。但し、地域の事情にあわせた独自企画へのアレンジが重要
- レンター（貸し館）型：創作活動の場として、地域住民、芸術家に貸し出す事業。貸出方針の明確化や柔軟な運用により、施設の方向性を示すことも可能（専用使用の可能性）

3. 事業対象地域による要素

- 地域内型：主に地域内の住民を対象とする事業
- 広域型：地域内に限定せず、より広いエリアをターゲットとする事業

4. 事業に対する視点による要素

- アウトリーチ型（主に施設外）：
芸術に触れることが難しい人々などに対して、「感動をしたい」という潜在的ニーズに働きかけ、観客の創造に繋げたり、芸術活動への理解、市民意識の向上を図る事業。地域住民に対して、地域文化施設の意義や重要性を理解してもらうことにもなる
- インリーチ型：
地域文化施設の意義や重要性への行政内部（首長、議員、予算担当）の理解を促進させる側面を持つ事業。結果として、地域文化施設の予算獲得につながる場合もある

5. 事業主体による要素

- プロ型
- アマチュア型
- プロ・アマ混合型